

これからの図書館のあり方について

(答申)

令和6年5月

北九州市立図書館協議会

はじめに

北九州市立図書館では、平成14(2002)年以降、本協議会の答申を基本的指針として位置づけ、これを踏まえた図書館運営が行われてきました。

平成28(2016)年の前回答申に基づく50事業については、その全てに取り組み、各成果は毎年度、図書館評価として報告され、本協議会による評価も付してきました。

しかし、前回の平成28(2016)年答申から7年が経過し、図書館を取り巻く環境が変化する中で、読書バリアフリー化の促進、新型コロナウイルス感染症流行を契機とするデジタル化の急速な進展など、現在、図書館には多様化・複雑化する課題への対応が求められています。

そこで、令和5(2023)年5月に中央図書館長より、これからの図書館のあり方について検討するよう本協議会に諮問が行われました。本協議会は、市民アンケートにより、市立図書館の利用状況や市民ニーズの把握に努めるとともに、他都市の公立図書館の視察を行ったうえで、これからの図書館のあり方について検討を重ねてまいりました。その結果、図書館の基本的な役割は大切にしながら、新たなニーズにも対応できる図書館となるよう、図書館運営の指針として、3つの「基本的な方向性」と8つの「施策の方針」を本協議会から提案します。

今後、この基本的な方向性及び施策の方針に基づき、図書館が具体的な運営計画を策定されると伺っているため、今回の答申では具体的な事業内容等には言及せず、基本的な方向性及び施策の方針を示すに留めています。

この答申がこれからの北九州市の図書館運営に活かされ、北九州市立図書館がより多くの市民に親しまれ、学びを支援し、生活の充実に資する場所となることを大いに期待しています。

令和6年5月

北九州市立図書館協議会

会長 中尾 泰士

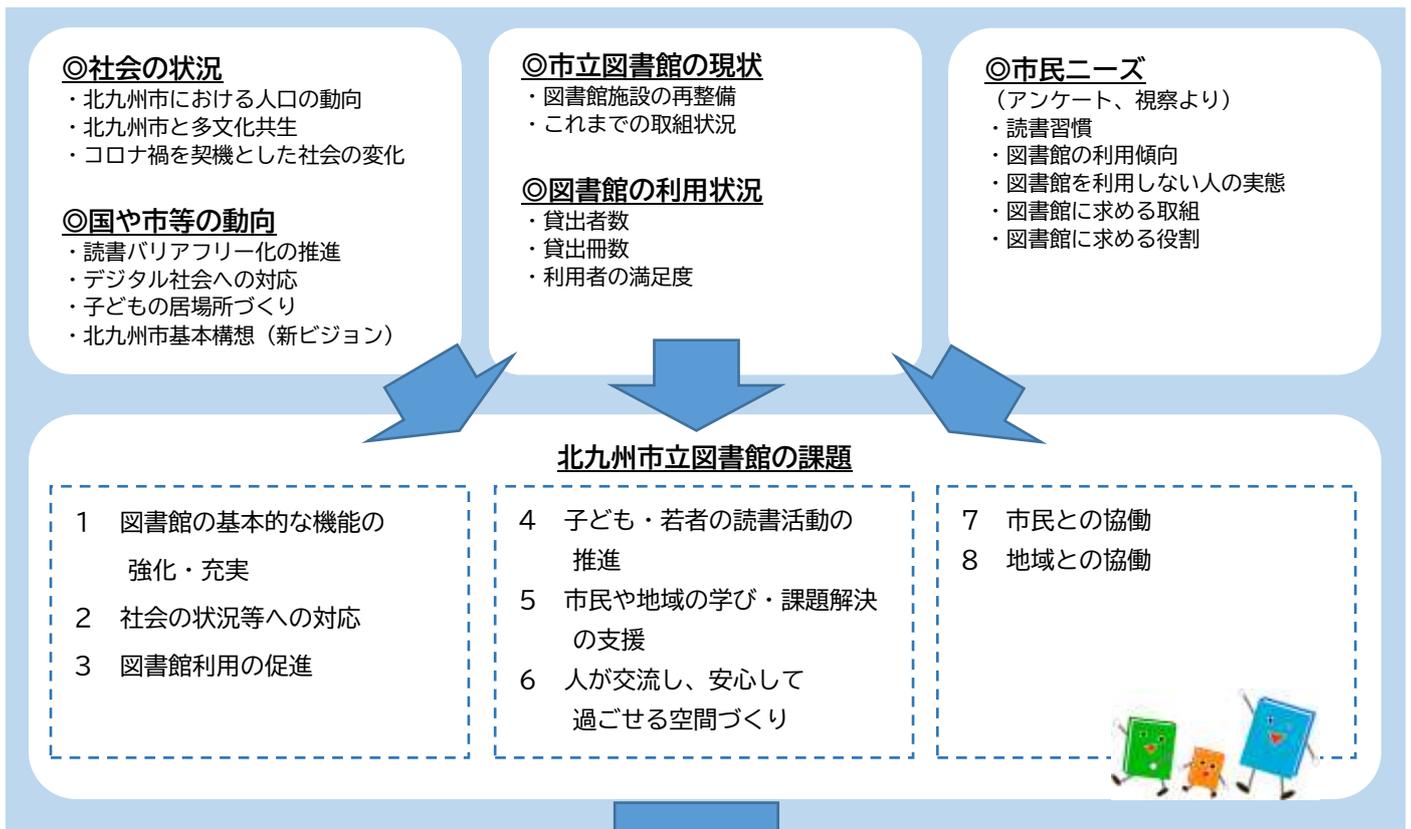
目 次

はじめに

これからの図書館のあり方について(答申)【概要図】

第1章 現状と課題	1
1 北九州市立図書館の現状	1
(1) 前回答申(平成28(2016)年)以降の歩み	1
(2) 市立図書館の利用状況	2
2 北九州市立図書館を取り巻く状況	3
(1) 社会的な背景	3
(2) 図書館に係る主な法整備や計画策定の動き	4
(3) 読書や図書館に対する北九州市民の意識	5
3 北九州市立図書館の課題とこれからの図書館のあり方	10
第2章 これからの図書館のあり方	11
1 基本的な方向性	11
2 施策の方針	11
資料編	15
1 これからの図書館のあり方について(答申)検討の経過	16
2 北九州市立図書館協議会委員名簿	16
3 図書館を取り巻く国や市の法令・計画(概略)	17
4 対象者別のアンケート調査実施項目	19
5 前回答申(平成28年)に基づいた取組	20

これからの図書館のあり方について(答申)【概要図】



これからの図書館のあり方について(答申)

基本的な方向性	施策の方針		
【方向性1】 誰もが利用しやすい 図書館	(1) 読書環境の整備	(2) 図書館利用者への支援	(3) 図書館からの情報発信
【方向性2】 人が学び、やすらぎ、 つながる図書館	(1) 子ども・若者の 読書活動推進	(2) 市民・地域の 学びと課題解決 の支援	(3) 「やすらぎ」と 「にぎわい」の 場づくり
【方向性3】 市民や地域と協働する 図書館	(1) 市民との協働	(2) 地域との協働	

第1章 現状と課題

1 北九州市立図書館の現状

(1) 前回答申(平成28(2016)年)以降の歩み

ア 図書館施設の再整備

北九州市公共施設マネジメント実行計画に基づき、平成 29(2017)年に勝山分館が、平成30(2018)年に企救分館、国際友好記念図書館及び戸畑分館が、平成31(2019)年には八幡東分館がそれぞれ廃止となりました。

一方で、平成30(2018)年には小倉南区民の強い要望のあった小倉南図書館と子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館が新たに開館しました。さらに、令和4(2022)年には折尾分館が移転・開館しました。

その結果、市内に中央図書館(小倉北区)、子ども図書館(小倉北区)、6地区館(小倉北区を除く6区)及び6分館(門司区・小倉南区・八幡西区・若松区)の全14館が整備されました。

そのうち、中央図書館と子ども図書館を除く12館で指定管理者制度が導入されています。また、一部施設の老朽化により、建物や設備の修繕などが必要な状況となっています。

イ 図書館サービスのさらなる充実

図書館の利便性を高めるために、JR 小倉駅構内とコムシティ(黒崎)前に返却ボックスが設置され、図書館以外での返却が可能になりました。

また、コロナ禍での子どもの読書や学習の機会を確保するために、令和3(2021)年4月、本市で初めての電子図書館となる「北九州市子ども電子図書館」が開設され、市内の小中学生へ ID・パスワードが配付されました。

さらに、地元ゆかりのある作家の作品の充実や、市民の課題解決支援のための分野別配架などが実施されました。他にも、来館のきっかけづくりのために、子ども図書館への読書通帳機の設置や、中央図書館での外国人市民の図書館ガイドツアー等が実施されました。

ウ 新型コロナウイルス感染症への対応

令和2(2020)年に新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、その防止対策として、令和2(2020)年2月から令和3(2021)年6月にかけて、3度(計155日間)にわたり臨時休館が行われました。

一方で、令和2(2020)年6月24日から同年度末までは、開館時間の制限はあつ

たものの、閲覧スペース・学習室の座席の間隔の確保などの対策を取りながら、市民の読書機会の確保・維持が図られました。

令和5(2023)年5月8日に新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類から5類に移行されたことに伴い、感染症拡大防止対策は緩和されました。

(2) 市立図書館の利用状況

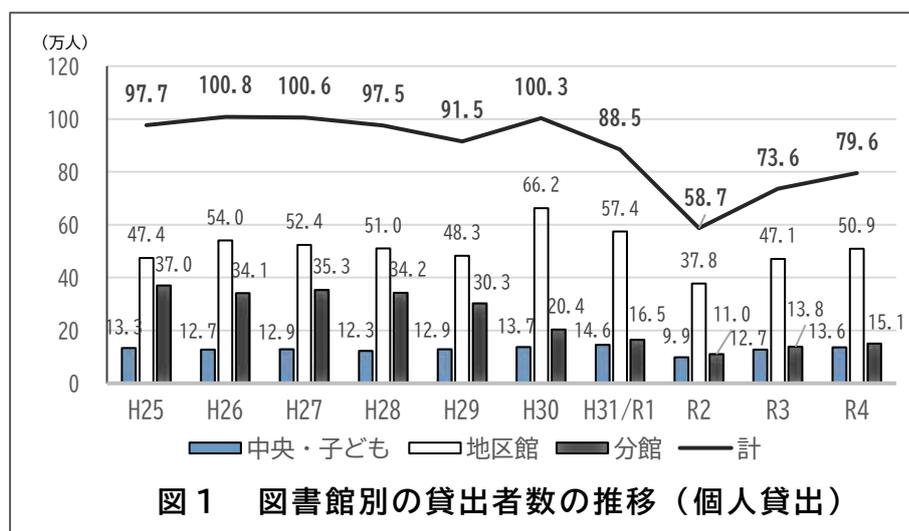
ア 貸出者数及び貸出冊数

ここ10年間の貸出者数の推移(図1)をみると、令和2(2020)年度から令和4(2022)年度までのコロナ禍において、市立図書館では臨時休館や開館時間の短縮などが行われたため、令和2(2020)年度の貸出者数は前年度から34%減と大きく落ち込みましたが、令和3(2021)年度からは回復傾向にあります。

また、分館での貸出者数は平成28(2016)年度から令和2(2020)年度にかけて減少する一方で、地区館の貸出者数は平成30(2018)年度に大きく増加しました。これは、平成29(2017)年度から令和元(2019)年度にかけて分館等5館が廃止となったことや、平成30(2018)年度に小倉南図書館が新規開館したことによるものと考えられます。

ここ10年間の貸出冊数(図2)についても、貸出者数と同様に推移しています。

なお、貸出者一人あたりの貸出冊数は3.8~4.0冊程度となっており、10年間で大きな変化は見られません。



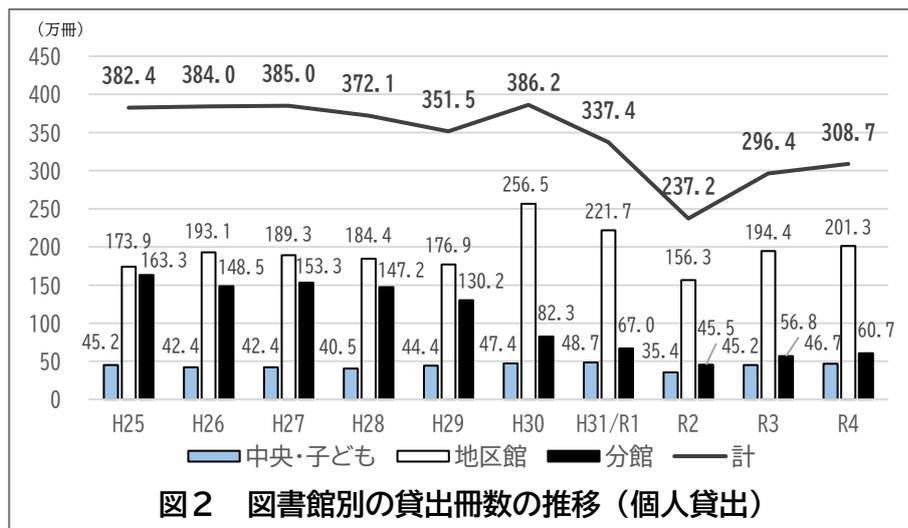
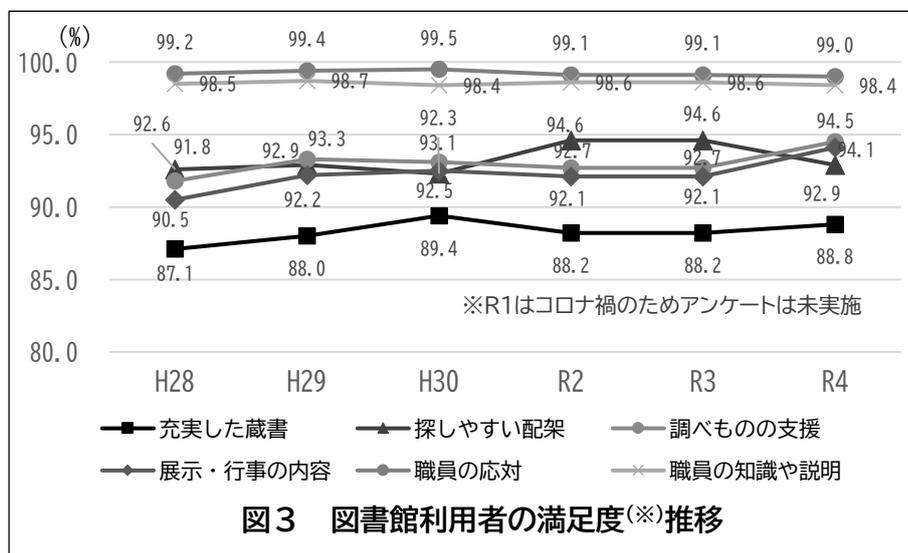


図2 図書館別の貸出冊数の推移 (個人貸出)

イ 図書館利用者の満足度

図書館では、利用者を対象に図書館サービスの満足度に関するアンケート調査が毎年度実施されています(令和元(2019)年度はコロナ禍のため未実施)。その結果によると「非常に満足」又は「満足」とする回答の割合(図3)の合計は、「職員の対応」及び「職員の知識や説明」では98%以上、「調べものの支援」及び「展示・行事の内容」、「探しやすい配架」では90%以上となっています。「充実した蔵書」については他の項目と比べるとやや低い水準ですが、88%前後で推移しています。



※「満足」又は「非常に満足」とする回答の割合の合計

2 北九州市立図書館を取り巻く状況

(1) 社会的な背景

ア 北九州市における人口の動向

北九州市の人口は昭和54(1979)年の106万8千人をピークに減少が続き、令和

5(2023)年10月時点では91万6千人となっています。そのうち、65歳以上の高齢者が総人口の約31%を占め(令和5(2023)年4月時点)、政令市の中で最も高齢化が進んでいます。一方で、出生率は平成22(2010)年以降過去最低を更新し続けるなど、少子高齢化の状況にあります。一方で、転入者数から転出者数を引いたマイナス幅は改善傾向にあります。

イ 北九州市と多文化共生

北九州市の総人口は減少傾向にありますが、市内に住む外国人の数については、年々増加傾向にあります。令和4(2022)年度末時点の外国人市民の数は約1.4万人で、北九州市の総人口の約1.5%を占めています。近年では多国籍化も進み、約100の国や地域にゆかりのある外国人が北九州市に住んでいます。また、在留目的についても永住、留学、技能実習など多様化が進んでいます。

ウ コロナ禍を契機とした社会の変化

令和2(2020)年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体で「オンライン化」、場所や時間にとらわれない「柔軟な働き方」、家族や健康、自分らしさを大切にする「持続可能な暮らし方」、東京一極集中を回避するための「地方分散の取組」等、働き方や人々の価値観にも変化が生じています。

(2) 図書館に係る主な法整備や計画策定の動き

前回の答申(平成28(2016)年)以降制定された主な法律、国や市の計画等は、次のようなものがあります。

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」(令和元(2019)年6月)では、図書館は、視覚に障害がある方等が利用しやすい書籍等の充実や利用支援の充実などが求められています。

「デジタル社会の実現に向けた重点計画」(令和5(2023)年6月)では、図書館等の社会教育施設がデジタル技術を活用し、地域の教育力を高めること等が求められています。

「こどもの居場所づくりに関する指針」(令和5(2023)年12月)では、多様な子どもの居場所づくりを進めるに当たり、図書館等の施設等既存の地域資源を活用することも有効とされています。

北九州市の動きとしては、「北九州市基本構想・基本計画」(令和6(2024)年3月)が策定され、本市の目指す将来像が示されました。また、「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」(令和元(2019)年8月)は、令和6(2024)年度に改定予定で検討が進められています。

図書館の運営に当たっては、これらの法律や各種計画等を踏まえて行っていく必要があります。

(3) 読書や図書館に対する北九州市民の意識

この答申にあたり、中央図書館が実施したアンケート調査の結果をもとに、市民の読書の実態や図書館への要望等の把握を行いました。

ア 実施概要

区分	対象	回答者数
一般市民	18歳以上の北九州市民(無作為抽出)	692人
図書館利用者	市立図書館(14館)の利用者	822人
中高生	中学3年生(各区1校)	393人
	高校3年生(各区1または2校抽出)	558人
小学生	小学6年生(各区1または2校抽出)	606人

※「一般市民」及び「中高生」、「小学生」には、図書館を利用する人も含まれます。

※小学生対象のアンケートは質問数を減らし、表現も平易なものに変更して実施されました。

イ 結果概要(一部抜粋)

ここでは、アンケート調査結果のうち読書の実態や図書館に求めること等について、図書館利用者でない人も含む一般市民と中高生、小学生を中心にまとめました。

○読書習慣・図書館の利用について

●読書習慣

ひと月に読む本の冊数 (図4)

- ・一般市民全体では、「1～3冊」が約半数で、最も多い
- ・一般市民のうち、「0冊(読まない)」は全年代で25%超で、20代では約半数(48.9%)

●図書館の利用

図書館の利用頻度

- ・20代は「ほとんど利用しない」「全く利用しない」が70%超
- ・中高生も「ほとんど利用しない」「全く利用しない」が60%超
- ・30代以降、「ほとんど利用しない」人が減り、「年に数回程度」以上利用する人が増える傾向

本の入手手段

- ・20代は他の年代と比べて、図書館等で借りて読書をする人が少なく、一方で電子書籍を購入して読書をする

●図書館の利用の仕方

図書館の利用目的

- ・一般市民と図書館利用者では「本や雑誌、CD・DVDを借りる・返す」が「本を読む」より多いが、小学生と中高生では逆転
- ・中高生では「学習室利用」が最も多い
- ・30代は「子どもと過ごす」の割合が他の年代よりも多い
- ・一般市民全体では「借りる・返す」、「本を読む」に次いで「調べ物をする」が3番目に多く、4番目が「のんびりする」

滞在時間

- ・一般市民と図書館利用者で最も多いのは「30分～1時間未満」であるが、中高生では「1時間～2時間未満」と長くなっている

●図書館を利用しない理由

「ほとんど利用しない」「全く利用しない」人の、利用しない理由

- ・20代では、多い順に「借りたり、返したりが面倒」「図書館に行く時間（暇）がない」「インターネットを利用して調べ物をしているので行く必要がない」
- ・中高生では、多い順に「本や図書館に興味が無い」「図書館に行く時間（暇）がない」「借りたり、返したりするのが面倒」

○図書館に求めることについて

●図書館に求める取組等

今後利用しやすくするために図書館に求めること（表1、図5）

- ・一般市民と中高生では「ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実」が最も多い
- ・「読書スペースやパソコン席等の充実」は、全ての対象者で2番目に多い
- ・その他、「蔵書の充実」「イベントの開催」「子どもが読書や図書館に親しめる取組み」が多い

●図書館に求める役割

図書館でどんなことができたらよいか（表2、図6）

- ・小学生は「家族や友達といっしょに楽しく過ごせる」が最も多く、それ以外の対象者は「ふらっと立ち寄り気がねなく過ごせる」が最も多い
- ・中高生では、「暑さ・寒さ・風雨を避けて快適に過ごせる」「家族や友達と一緒に楽しく過ごせる」「グループで交流できる」も多い
- ・一般市民と図書館利用者では、「さまざまな世代が楽しくイベントに参加できる」「生活や仕事、学習に役立つイベントに参加できる」も多い

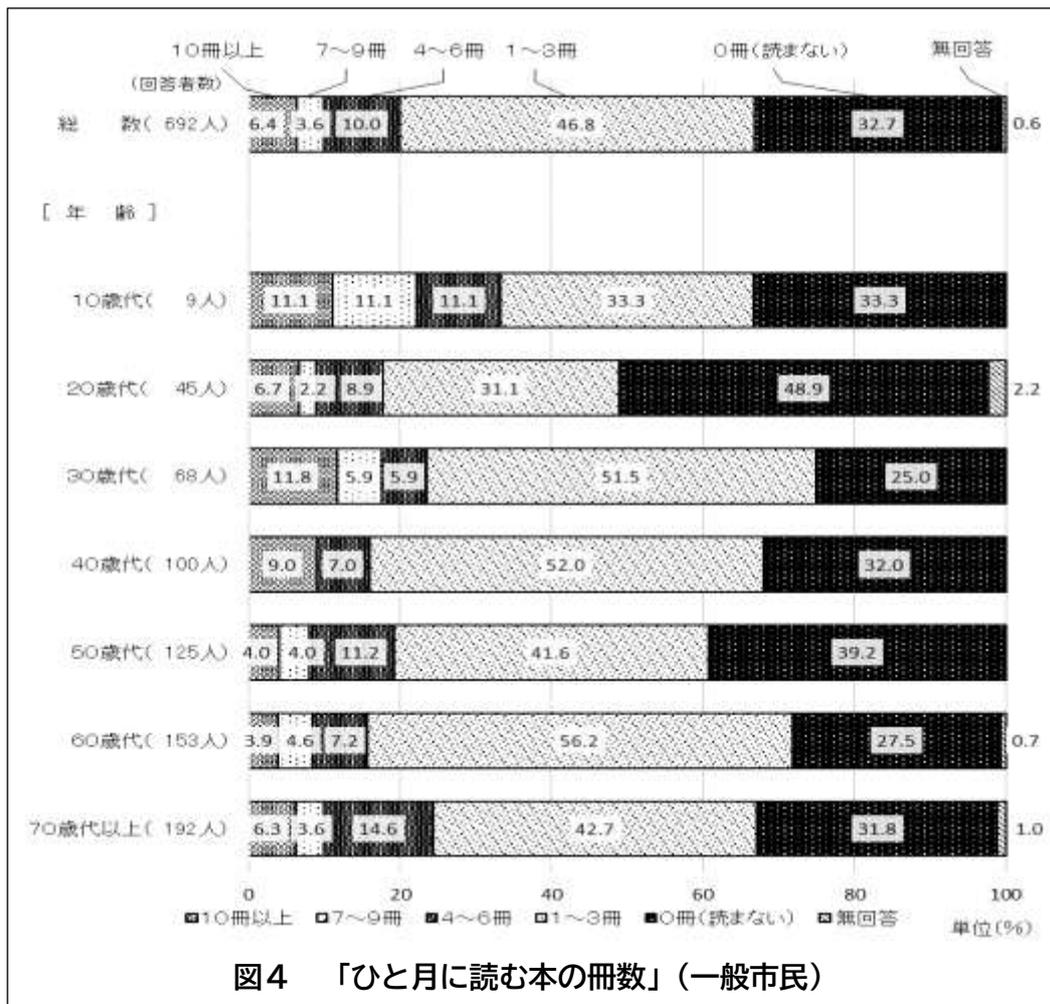
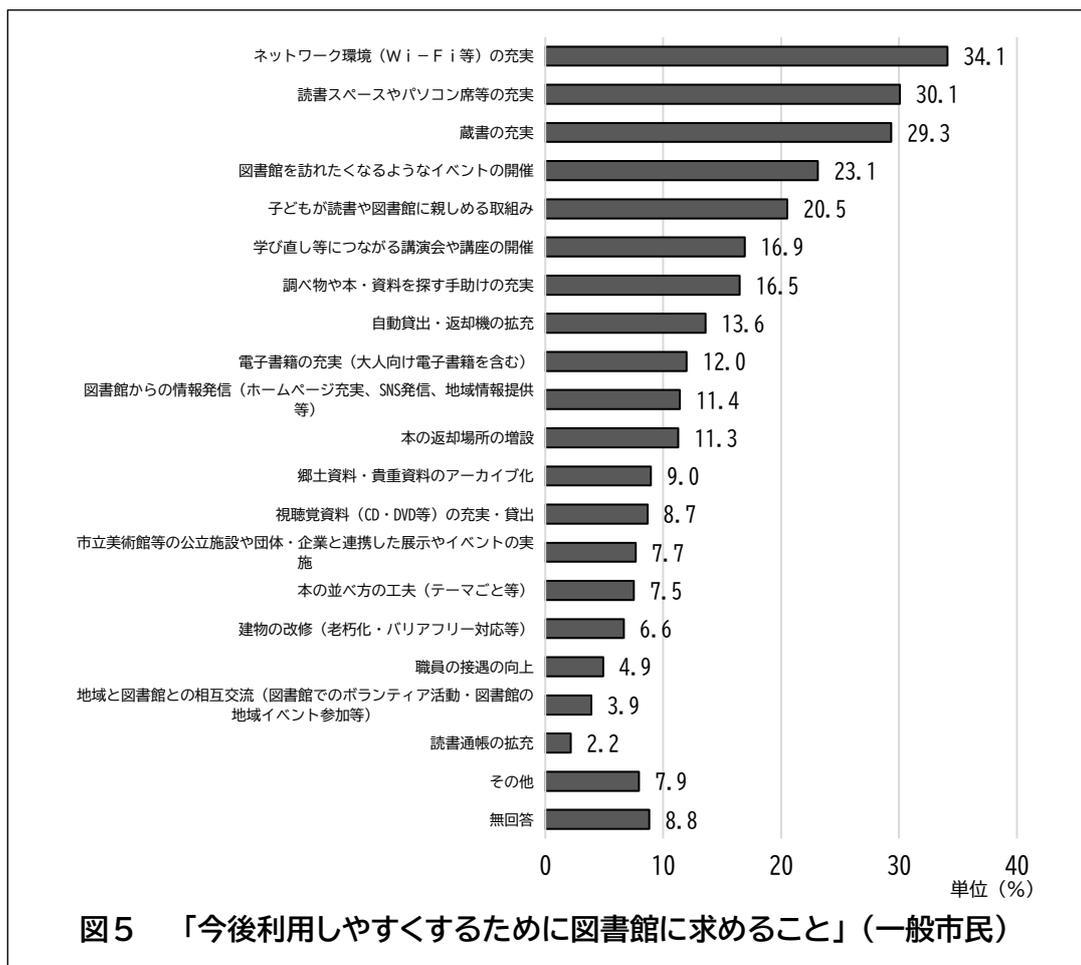


表1 「今後利用しやすくするために図書館に求めること」(対象者別)

	一般市民 (N=692)	図書館利用者 (N=822)	中高生 (N=951)
1位	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【236】	蔵書の充実【483】	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【614】
2位	読書スペースやパソコン席等の充実【208】	読書スペースやパソコン席等の充実【216】	読書スペースやパソコン席等の充実【404】
3位	蔵書の充実【203】	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【192】	若者が読書や図書館に親しめる取組み【189】
4位	図書館を訪れたいくなるようなイベントの開催【160】	図書館を訪れたいくなるようなイベントの開催【149】	蔵書の充実【164】
5位	子どもが読書や図書館に親しめる取組み【142】	子どもが読書や図書館に親しめる取組み【146】	調べ物や本・資料を探す手助けの充実【138】

※複数回答(最大5つまで選択)可の質問。【 】内の数字は、回答数を示す。

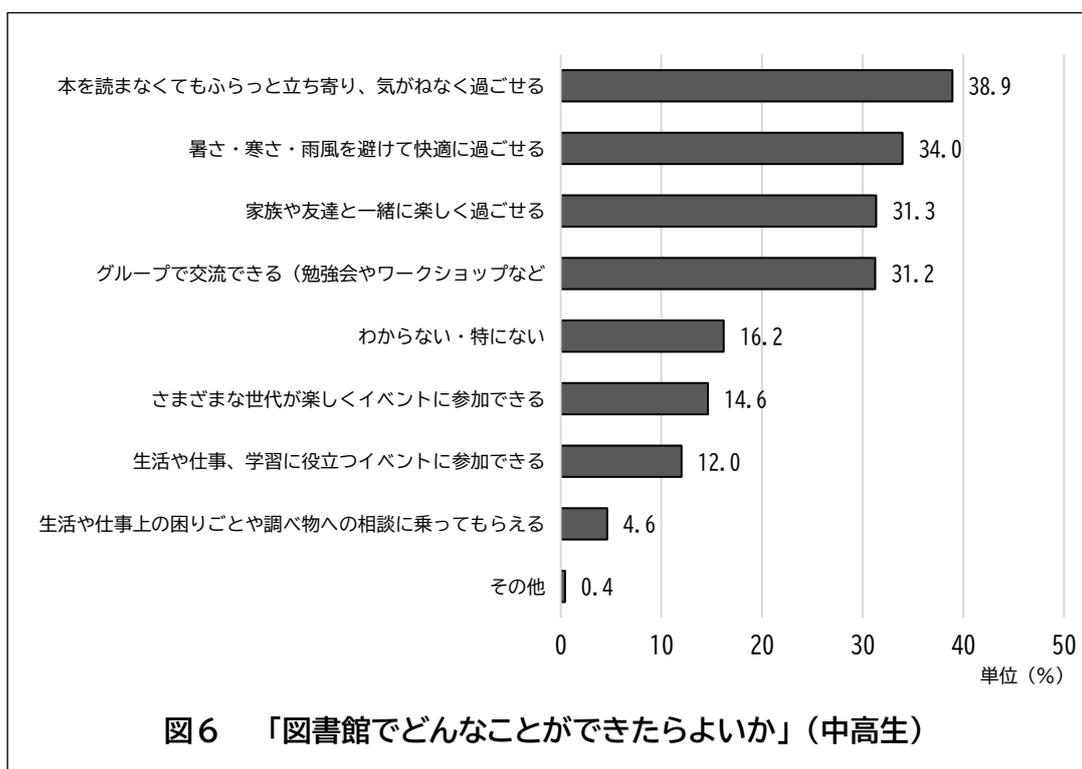


※グラフ内の数字は、回答者のうちその項目を選択した人の割合を示す。

表2 「図書館でどんなことができればよいか」(対象者別)

	一般市民 (N=692)	図書館利用者 (N=822)	中高生 (N=951)	小学生 (N=606)
1位	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせる【331】	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせる【312】	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせる【370】	家族や友達といっしょに楽しく過ごせる【243】
2位	さまざまな世代が楽しくイベントに参加できる【168】 生活や仕事、学習	生活や仕事、学習に役立つイベントに参加できる【241】	暑さ・寒さ・風雨を避けて快適に過ごせる【323】	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、安心して過ごせる【171】
3位	に役立つイベントに参加できる【168】	さまざまな世代が楽しくイベントに参加できる【220】	家族や友達と一緒に楽しく過ごせる【298】	暑さ・寒さ・風雨をさけてかいてきに過ごせる【170】

※複数回答(最大3つまで選択)可の質問。【 】内の数字は、回答数を示す。



※グラフ内の数字は、回答者のうちその項目を選択した人の割合を示す。

3 北九州市立図書館の課題とこれからの図書館のあり方

図書館の現状や取り巻く状況等を踏まえて、北九州市立図書館の課題及びその概要を整理しました。

また、これらの課題を踏まえ、「これからの図書館のあり方」における考え方を表にまとめました。

課題	概要	「これからの図書館のあり方」における考え方
1 図書館の基本的な機能の強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集・保存・提供の充実 書架や読書スペース等のさらなる充実の必要性 	●誰もが利用しやすい
2 社会の状況等への対応	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化への対応 多様化する市民ニーズへの対応(読書バリアフリーを含む) 施設の老朽化等への対応 	
3 図書館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> 利用方法の案内・利用サポート 来館のきっかけづくりの工夫 使いやすい施設(Wi-Fiの充実等) 図書館の取組の情報発信 	
4 子ども・若者の読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動の推進 図書館離れ、読書量減少への対応 	●市民の成長につながる ●市民が集まり交流する
5 市民や地域の学び・課題解決の支援	<ul style="list-style-type: none"> 「知りたいこと」「困りごと」への適切な対応 市民にとって楽しく有意義な講座 地域の情報の発信拠点 	
6 人が交流し、安心して過ごせる空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 居場所づくり 本を読まなくてもゆっくり過ごせる空間づくり 人々が交流する賑わいのある場所 	
7 市民との協働	<ul style="list-style-type: none"> 市民の活躍(ボランティア活動等)の場の提供 市民の意見を反映させた図書館運営 	●市民や地域に貢献する
8 地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設・企業等との情報共有、連携 地域の活性化 	

第2章 これからの図書館のあり方

1 基本的な方向性

図書館に寄せられる市民の期待と信頼に応えるために、これからの図書館のあり方における基本的な方向性として次の3つを提案します。

《基本的な方向性》

- 方向性 1 誰もが利用しやすい図書館
- 方向性 2 人が学び、やすらぎ、つながる図書館
- 方向性 3 市民や地域と協働する図書館

2 施策の方針

方向性 1 誰もが利用しやすい図書館

(1) 読書環境の整備

図書館利用者の満足度やアンケートの結果からも、蔵書の充実は常に図書館に求められている課題といえます。図書館には、社会情勢の変化や、読書や来館に困難がある方を含む多様な市民の多様なニーズを考慮し、図書資料の収集・提供の充実や配架の工夫に努めていただきたいと考えます。

また、これからの時代においては、図書館のインターネット環境を整えるとともに、電子書籍の充実や図書館が所蔵する貴重な資料のデジタルアーカイブ化などデジタル化への対応を進めていくことが求められます。読書バリアフリーの観点からも、来館・非来館を問わず誰もが読書機会を得られるよう、デジタルデータを利活用することが図書館には求められています。

あわせて、施設の老朽化やバリアフリーへの対応など施設・設備面の改善にも取り組み、誰もが利用しやすい読書環境の整備に努めていただきたいと考えます。

(2) 図書館利用者への支援

アンケート結果では、市民が図書館を利用しない理由として「借りたり、返したりするのが面倒」という回答が最も多くなっています。

そのため、図書館の利用に面倒や不便を感じる人にも気軽に図書館を使ってもらえるよう、わかりやすい利用案内リーフレットの作成、図書館職員等による利用者のサポート、来館しなくても利用できる電子書籍の案内などにより、図書館の利用支援に努めていただきたいと考えます。

また、図書館職員が館内を案内するガイドツアーや図書館でできることについての講座開催などにより、図書館の利用方法について理解を深めてもらうこ

とで、図書館利用の促進につなげていただきたいと思います。

(3) 図書館からの情報発信

アンケート結果より、図書館を全く又はほとんど利用しない人は、一般市民の全ての年代で50%を超えており、特に20代では70%を超えることがわかりました。また、図書館では、資料の貸出以外にも様々なサービスを提供していますが、アンケート結果によると、講座・講演会、読書相談・調査相談(レファレンス)、読書バリアフリーや多文化共生に対応した資料の収集・提供などについては、市民にあまり知られていない状況です。こうしたサービスの内容を知っていただき、市民の利用につなげていくことが必要です。

また、図書館が所蔵する貴重な資料やイベント開催など図書館の魅力を伝え、市民に図書館に関心を持ってもらうことも大切です。

このため、図書館ホームページや広報紙(図書館だより)、館内掲示等を活用するとともに、図書館を利用していない人にも情報が届くよう、学校や関係団体等と連携するなどして、効果的な情報発信に努めていただきたいと思います。

方向性 2 人が学び、やすらぎ、つながる図書館

(1) 子ども・若者の読書活動推進

子どもの表現力や情緒を育むためには、乳幼児の頃から読書に親しみ、生涯にわたる読書習慣の基盤をつくることが大切であると言われています。

アンケート結果を見ると、30代の市民は、子どもと過ごす目的で図書館に来ている人が多く、親子で読書を楽しむ場として図書館が利用されていることがうかがえます。引き続き、親子で楽しめるイベントや調べ学習の支援などにより、子どもの読書活動を推進する取組を充実させていただきたいと考えます。

一方、アンケート結果から、中高生や20代の市民には、図書館があまり利用されず、読書量も少ない人が多いことが見受けられました。図書館が若者のニーズに合う選書、図書館を活用した学習への支援、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりなどに工夫を凝らし、若者にとっても魅力ある存在となるよう努めることで、若者の読書活動の推進につなげていただきたいと思います。

(2) 市民・地域の学びと課題解決の支援

インターネットを使って誰でも手軽に情報にアクセスできる時代ですが、市民が大量の情報から必要とする正確な情報を得ることは容易ではありません。そのような中であって、インターネット以外の情報源も活用しながら、必要な情報を得られるよう市民を支援する図書館の役割は重要性を増していると言えます。

市民が抱える課題や知りたいことに対し、書籍・商用データベース・専門機関への問い合わせなど、様々な情報資源を使ったレファレンスサービスを通じて信頼できる情報を提供し、市民の学びや課題解決の支援に努めていただきたいと考えます。

また、市民からのより高度なレファレンスに対応できるよう、職員研修等を積極的にいき、スキルの向上を図っていただきたいと考えます。

さらに、アンケート結果により、市民の多くが関心を持っている、健康、子育て、自己能力アップ等については、テーマ別配架や企画展示等により、市民に情報が届きやすくなる工夫を行っていただきたいと考えます。

(3)「やすらぎ」と「にぎわい」の場づくり

アンケート結果を見ると、図書館は「静かに読書をしたり、調べものをしたりする場所」という従来のイメージを超えて、世代を問わず、安心してのんびり過ごせる場や友達や家族と楽しく過ごせる場であることが求められていると言えます。

そのため、図書館は居心地の良い空間づくりへの工夫や、親子で参加できるイベントの実施、学習・研究等のグループ活動を行う場の提供などにより、市民に様々な目的で来館してもらえるよう努めていただきたいと考えます。そのことにより、市民の交流の機会にもつながり、安らぎとともに賑わいのある図書館となっていくことを期待します。

方向性 3 市民や地域と協働する図書館

(1) 市民との協働

図書館には、市民の多様なニーズに対応したサービスを提供していくことが求められます。そのためには、図書館利用の有無にかかわらず、若者や高齢者、障害のある方等幅広い市民からの意見を把握し、図書館サービスに反映させるよう努めていただきたいと考えます。

また、図書館には、社会教育施設として市民の自己実現・社会参加の場となることも求められています。現在も行われている読み聞かせや配架ボランティア等に加え、多様な市民に、それぞれの知識・関心や技能等に応じて図書館運営に参画していただく機会を増やし、図書館が市民に開かれた、活気あふれる場となるよう努めていただきたいと考えます。

(2) 地域との協働

図書館には、市民の暮らしや学びに役立つ、地域に根差した情報を提供していくことが求められています。

これからも市内の文化施設、観光・イベント情報、スポーツチーム等の情報収集・提供を充実していくとともに、各施設のイベント等と連携した企画展示など効果的な情報発信に努めていただきたいと思います。

また、地元商店街等地域の団体と協働したイベントの実施や出前講座の実施など図書館外に積極的に出向くことにより、市民に図書館を知ってもらう機会を拡充するとともに、まちの賑わいづくりにも貢献していくことを期待します。

資料編

1 これからの図書館のあり方について(答申)検討の経過

年月日	実施事項（ []は内容 ）
令和5(2023)年 5月24日	令和5年 第2回図書館協議会 [これからの図書館のあり方について諮問、協議]
令和5年 7月 5日	令和5年 第3回図書館協議会 [アンケートの項目検討ほか協議] [これからの図書館のあり方 基本的な方向性(試案)提示]
令和5年 8月22日 ～ 9月30日	「これからの図書館のあり方」に関するアンケート調査実施 対象:一般市民、図書館利用者、小学生、中高生
令和5年11月22日	他都市図書館視察 視察先:ミライ ON 図書館(長崎県大村市)
令和6(2024)年 2月 7日	令和6年 第1回図書館協議会 [これからの図書館のあり方(素案)検討]
令和6年 5月22日	令和6年 第2回図書館協議会 [これからの図書館のあり方について答申]

2 北九州市立図書館協議会委員名簿

区分	氏名	所属団体役職名	備考
学校教育関係者	本田 壽志	北九州市学校図書館協議会会長	
	上満 佳子	北九州市学校図書館協議会副会長	
	谷川 陽一	福岡県公立高等学校長協会北九州地区前会長	～R6.4.25
	石川 一仁	福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	R6.4.26～
	麻生 恭子	(一社)北九州市私立幼稚園連盟前理事	～R6.4.25
	有田 裕子	(一社)北九州市私立幼稚園連盟理事	R6.4.26～
家庭教育の向上に資する活動を行う者	福田 百合加	(一社)北九州市PTA協議会副会長	副会長
	北野 久美	(一社)北九州市保育所連盟副会長	～R6.4.25
	伊賀良 昌宏	(一社)北九州市保育所連盟副会長	R6.4.26～
	末吉 智久美	(一社)北九州青年会議所理事	
	山中 啓稔	公募委員	
社会教育関係者	宮本 和代	北九州市社会教育委員	
	吉松 喜美子	北九州市婦人団体協議会監査	
	林 芳江	北九州市障害福祉団体連絡協議会会長	
	阿部 和代	北九州児童文化連盟副会長	
学識経験者	中尾 泰士	北九州市立大学前図書館長	会長
	山口 秋義	九州国際大学図書館長	
	鈴木 研	公募委員	

3 図書館を取り巻く国や市の法令・計画(概略)

区分	法令・計画名	概要
北九州市の 新たな ビジョン	市北九州市基本構 想・基本計画(令和 6年,北九州市)	○北九州市で最上位に位置づけられる計画。 ・今後北九州市が目指す将来の都市像(稼げるま ち、彩りあるまち、安らぐまち)
子どもの 読書推進	国第5次子どもの読 書活動の推進に関 する基本的な計画 (令和5年,文部科 学省)	○すべての子どもたちが読書活動の恩恵を得られ るよう、社会全体で子どもの読書活動を推進する もの。 ・学校や図書館、その他の関連団体の連携による 子どもの読書活動の推進 ・多様な子どもたちの読書機会の確保 ・デジタル社会に対応した読書環境の整備
	市第2期北九州市子 どもの未来をひら く教育プラン(令和 元年,北九州市教 育委員会)	・確かな学力育成のための読書活動の推進 ・市民総ぐるみで子どもたちを支援するセーフティ ネットの構築
	市第4次北九州市子 ども読書活動推進 計画(=北九州市 子ども読書プラン) (令和3年,北九州 市教育委員会)	○北九州市の子ども達がより読書に親しむことだ けでなく、それを通じたシビックプライドの醸成や SDGsの目標達成を目指すもの。
バリアフリー	国障害を理由とする 差別の解消の推進 に関する法律(= 障害者差別解消 法)(平成25年)	○公共施設等は、障害者が障害を理由として差 別・権利利益の侵害を受けることのないよう、必要 かつ合理的な配慮を行うための施設等の整備や関 係職員に対する研修等に努めるもの。
	国視覚障害者等の 読書環境の整備の 推進に関する法律 (=読書バリアフ リー法)(令和元年)	○公立図書館等が視覚障害者等にとって利用しや すい図書館となるよう、障害者の中でも特に視覚 障害者等の読書環境の整備に視点をのこしたもの。 ・アクセシブルな電子書籍等の普及及びアクセシ ブルな書籍の継続的な提供 ・アクセシブルな書籍等の量的拡充・質の向上 ・視覚障害者等の種類・程度に応じた配慮

デジタル化 社会	国 デジタル社会の実現に向けた重点計画(令和5年,デジタル庁)	○「誰一人として取り残されない、人に優しいデジタル化」を目指すもの。 ・データの利活用促進や連携の仕組みの標準化等、準公共分野のデジタル化 ・業務効率化等、デジタル化による地域の活性化 ・利用者視点に立つ情報リテラシーの啓発、DX化やAIの活用、効果の可視化
	国 著作権法の一部を改正する法律(令和4年,文化庁)	○各図書館等による図書館資料のメール送信等について、一定条件の下、可能とするもの。
社会教育 施設としての 図書館	国 人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)(平成30年,中央教育審議会)	○多様化・複雑化する社会とその課題へ対応するため、図書館をはじめとした社会教育施設を「住民主体の地域づくり、持続可能な共生社会の構築に向けた幅広い取組や、行政をはじめとした地域の幅広い情報の発信拠点」としても位置付けるもの。 ・図書館は、市民生活のあらゆる分野に係る関係機関との連携の下、利用者及び住民の要望や社会の要請に応えるための運営の充実を図る。
	市 北九州市生涯学習推進計画“学びと活動の環”推進プラン(令和3年,北九州市市民文化スポーツ局)	○市民一人ひとりが自主的・主体的な循環型の学習活動を行う「循環型生涯学習社会」を目指して環境整備を行うもの。
「居場所」としての図書館	国 こどもの居場所づくりに関する指針(令和5年,こども家庭庁)	○こどもの居場所づくりを目的とし、地方自治体や学校、社会教育施設に一定の考え方を示すもの。 ・図書館を含む既存の施設やボランティア等を地域資源として活用し、多様なこどもの居場所づくりを進める。
持続可能な 図書館運営	市 北九州市公共施設マネジメント実行計画(平成28年,北九州市)	○真に必要な公共施設を安全に保有し続けることができる運営体制を確立していくことを目的とするもの。 ・図書館の分館は、地区図書館等の整備状況や人口動態、利用実態等の推移をみながら縮減していくこととする。

4 対象者別のアンケート調査実施項目

	設 問	調 査 の 視 点	一般 市民	図書館 利用者	中高生	小学生	必須
1	月に何冊くらいの本(雑誌以外)を読むか	読書の習慣	○	○	○	○	*
2	何か知りたいときどうやって調べているか	図書館利用実態 購入・インターネット志向	○	○	○	○	*
3	その本や雑誌をどうやって入手しているか	図書の入手手段	○	○	○		*
4	主に利用する図書館は	図書館の利用状況	○	○	○	○	*
5	どのくらいよく北九州市立図書館を利用しているか	//	○	○	○	○	*
6	その図書館が主に利用する館である理由は	//	○	○	○	○	
7	主にどのような目的で図書館を利用しているか	//	○	○	○	○	
8	その図書館での平均滞在時間は	// 居場所としての利用実態	○	○	○		
9	借りた本を主にどこで返しているか	図書館の利用状況	○	○	○		
10	図書館を利用しない理由は	低頻度利用者の実態	○	○	○	○	
11	現在の開館時間に不便を感じるか	市民のニーズ	○	○	○		
12	開館時間について、どう思うか	市民のニーズ	○	○	○		
13	延長した時間帯をどのように利用するか	市民のニーズ	○	○	○		
14	電子書籍を利用して本を読んだことがあるか	電子書籍の利用実態	○	○	○	○	*
15	北九州市子ども電子図書館を利用したことがあるか	市子ども電子図書館の利用実態	○	○	○	○	*
16	図書館で行っているサービスを知っているか	サービスの認知度	○	○	○		*
17	充実を希望する関連図書コーナーや講演会の分野	市民のニーズの把握	○	○	○		*
18	利用しやすさ向上のために今後どのようなことを求めるか	// (図書館に求める取組)	○	○	○		*
19	本の利用等以外に図書館でどんなことができたらいいと思うか	// (図書館に求める役割)	○	○	○	○	*
20	北九州市立図書館に関する意見(自由記述)	//	○	○	○		
回答者属性	年代(または校種)		○	○	○		*
	居住地		○	○	○		*
	学校所在区				○	○	*
	職業		○	○			*

※ 表中の○印は、対象者にその質問をしたことを示す

※ アンケートの結果は、報告書(別冊)にて報告

5 前回答申(平成28年)に基づいた取組

大項目	中項目	主な取組
1 多様な施設とつながる図書館	(1) 文学館などの文化施設との連携 【4事業】	<ul style="list-style-type: none"> 各館において各種文化施設の広報物の館内掲示や施設の催事に連動した図書資料の展示や図書館行事を行った。 各館において地元出身作家のコーナーを設けるなど地元ゆかりの作家の蔵書の充実と顕彰を図った。
	(2) 他施設との連携 【3事業】	<ul style="list-style-type: none"> 大学教員を講師に招いての講座の開催や学生と協力した行事の開催など大学との連携に努めた。 中央図書館・子ども図書館と各地区図書館が参加する会議等を通じて情報の共有を図り、市立図書館のネットワークを強化した。
	(3) 身近なネットワークの構築 【3事業】	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、市民センター等に設置しているひまわり文庫は身近に図書館の本を借りることができる場として、図書館を補完した。 様々な施設に貸し出し文庫を設置し、安定して配本した。
2 市民の課題解決を支援する図書館	(1) レファレンスの強化 【3事業】	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館を中心に各館で受けたレファレンス事例を国立国会図書館レファレンス協同データベースに積極的に登録した。 職員は集合研修やオンライン研修に積極的に参加し、実務に生かした。
	(2) 特色ある図書館づくり 【6事業 ※内再掲3事業】	<ul style="list-style-type: none"> 各館において市民の課題解決に役立つテーマの資料を集めたコーナー設置や館内展示、講座の開催などに取り組んだ。 各館において郷土資料の収集を確実に行うとともに地域の特性を生かした展示、講座の開催等の取組を継続的に行った。
3 子どもの読書活動を積極的に推進する図書館	(1) 子どもの読書活動の推進 【12事業 ※内再掲1事業】	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの読書活動の推進拠点となる子ども図書館を整備した。(平成30年12月開館) 「はじめての絵本」事業を実施した。 子ども図書館等に子ども用レファレンス窓口を設け、調べ学習等で気軽に相談できる環境を提供した。 各館で読み聞かせやお話会を実施した。 各館でヤングアダルトコーナーの充実を図った。 各館で家読(うちどく)コーナーを設置するなど家読の推進を図った。 子ども図書館で「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」を実施するなど地域人材の育成を図り、活動場所の提供を行った。 令和3年北九州市独自の「北九州市子ども読書の日」(10月)を新設し、各館で様々なイベントを実施し、来館のきっかけづくりや中高生の活動発表の機会を提供した。

	(2) 学校における読書活動の支援 【7事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書や読み聞かせボランティアを学校や子育て関連施設等に派遣し、読み聞かせやブックトークを行った。 ・司書教員や学校図書館職員に図書館の学校向けサービスを紹介するとともにブックヘルパーへの研修会を実施した。 ・「子ども司書養成講座」を毎年継続して開催した。 ・市内の小・中・特別支援学校の児童生徒を対象に「読書感想文コンクール」を実施した。 ・子ども図書館と地区図書館が協力し、児童生徒の図書館見学や職場体験を受け入れた。
4 誰もが使いやすく、人や情報が交流する図書館	(1) 情報化への対応 【3事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・所蔵する郷土資料の一部のデジタル化を継続して行った。 ・コロナ禍の読書や学習機会の確保等を目的に「北九州市子ども電子図書館」を開設した。(令和3年4月)
	(2) ニーズに応じたサービスの提供 【5事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・各館で高齢者や障害のある方に配慮した資料を収集した。 ・中央図書館で身体障害等の理由で来館困難な方を対象とした「郵送貸出」サービスを継続実施した。 ・中央図書館で視覚障害のある方等を対象とした「録音図書等貸出」サービスを令和4年度に開始した。 ・JR小倉駅構内とコムシティ入口(黒崎)に返却ボックスを設置し、図書館以外での返却ができるようになった。(平成29年7月)
	(3) 親しみやすい図書館づくり 【2事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども図書館では「読書通帳」を導入した。 ・各館において「北九州市子ども読書の日」に合わせたもの等、多様なイベントを実施した。 ・各館において近隣の自治会と協力して図書館だよりを回覧したり、小中学校・幼稚園・保育園、病院等各種施設に図書館だよりや新刊案内、行事チラシ等を設置したりして、広報に努めた。
5 市民参画型図書館	(1) ボランティアの育成と活用 【5事業 ※内再掲1事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館では「図書館ボランティア養成講座」、子ども図書館では「読み聞かせ・読書ボランティア養成講座」やブックヘルパーの人材育成研修等を実施した。
	(2) 開かれた図書館づくり 【2事業】	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため開催困難な時期もあったが、自由闊達な議論が展開されるよう図書館協議会の運営の工夫に努めている。 ・図書館評価の様式に改良を加え、見やすくわかりやすいものにした。